

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向
令和元年度 2 月

○ 概要

(1) 令和 2 年 2 月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同じ。）は 6,340 億円（伸び率（対前年度同期比。以下同じ）+4.9%）で、処方箋 1 枚当たり調剤医療費は 9,140 円（伸び率+3.4%）であった。（→P.1~2）

調剤医療費の内訳は、技術料が 1,654 億円（伸び率+4.5%）薬剤料が 4,675 億円（伸び率+5.0%）、薬剤料のうち、後発医薬品が 884 億円（伸び率+2.3%）であった。（→P.4）

(2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋 1 枚当たり薬剤料 5,312 円（伸び率+2.6%）を、処方箋 1 枚当たり薬剤種類数、投薬日数、1 種類数 1 日当たり薬剤料の 3 要素に分解すると、各々 2.77 種類（伸び率+0.1%）、24.8 日（伸び率+3.9%）、77 円（伸び率▲1.3%）であった。（→P.8,9）

(3) 内服薬の薬剤料 3,685 億円（伸び幅（対前年度同期差。以下同じ。）+144 億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは 21 循環器官用薬の 638 億円（伸び幅▲4 億円）で、伸び幅が最も高かったのは 39 その他の代謝性医薬品の+46 億円（総額 589 億円）であった。（→P.13~19）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	3,685 億円 (+144 億円)	21 循環器官用薬 (638 億円)	11 中枢神経系用薬 (621 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(589 億円)
0 歳以上 5 歳未満	26.8 億円 (▲0.4 億円)	44 アレルギー用薬 (11.3 億円)	61 抗生物質製剤 (4.6 億円)	22 呼吸器官用薬 (4.2 億円)
5 歳以上 15 歳未満	94.5 億円 (+1.3 億円)	44 アレルギー用薬 (41.6 億円)	11 中枢神経系用薬 (20.3 億円)	61 抗生物質製剤 (7.4 億円)
15 歳以上 65 歳未満	1,329 億円 (+60 億円)	11 中枢神経系用薬 (273 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(223 億円)	21 循環器官用薬 (195 億円)
65 歳以上 75 歳未満	855 億円 (+24 億円)	21 循環器官用薬 (177 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(170 億円)	42 腫瘍用薬 (108 億円)
75 歳以上	1,379 億円 (+59 億円)	21 循環器官用薬 (262 億円)	11 中枢神経系用薬 (227 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(191 億円)

(4) 処方箋 1 枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では 9,140 円（伸び率+3.4%）で、最も高かったのは高知県（11,113 円（伸び率+8.9%））、最も低かったのは佐賀県（7,706 円（伸び率+3.3%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは高知県（伸び率+8.9%）、最も低かったのは徳島県（伸び率+1.1%）であった。（→P.31~32）

《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品割合】（→P.39）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^注	80.3 %	+2.8 %
薬剤料ベース	18.9 %	▲0.5 %
後発品調剤率	76.1 %	+1.8 %
（参考）数量ベース（旧指標）	55.5 %	+1.6 %

注）【後発医薬品の数量】 / （【後発医薬品のある先発医薬品の数量】 + 【後発医薬品の数量】）で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.40~41）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+2.3 %	+15.9 % (10 歳以上 15 歳未満)	▲7.5 % (65 歳以上 70 歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	18.9 %	23.7 % (0 歳以上 5 歳未満)	15.0 % (10 歳以上 15 歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	80.3 %	82.8 % (25 歳以上 30 歳未満)	74.5 % (10 歳以上 15 歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.46~50）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	760 億円 (▲2 億円)	21 循環器官用薬 (224 億円)	23 消化器官用薬 (99 億円)	11 中枢神経系用薬 (94 億円)
0 歳以上 5 歳未満	8.2 億円 (+0.5 億円)	44 アレルギー用薬 (3.3 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.5 億円)	61 抗生物質製剤 (1.3 億円)
5 歳以上 15 歳未満	23.4 億円 (+2.3 億円)	44 アレルギー用薬 (14.1 億円)	61 抗生物質製剤 (2.7 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.7 億円)
15 歳以上 65 歳未満	276 億円 (+4 億円)	21 循環器官用薬 (64 億円)	44 アレルギー用薬 (52 億円)	11 中枢神経系用薬 (46 億円)
65 歳以上 75 歳未満	175 億円 (▲6 億円)	21 循環器官用薬 (68 億円)	23 消化器官用薬 (23 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(18 億円)
75 歳以上	276 億円 (▲2 億円)	21 循環器官用薬 (91 億円)	23 消化器官用薬 (47 億円)	11 中枢神経系用薬 (32 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.55~60）

	全国	最高	最低
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	1,275 円	1,653 円(北海道)	1,064 円(佐賀県)
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	+0.8%	+5.5 %(山梨県)	▲1.7 %(福井県)
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	80.3 %	88.7 %(沖縄県)	74.3 %(徳島県)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	18.9 %	22.3 %(鹿児島県)	16.6 %(京都府)
後発医薬品調剤率	76.1 %	83.7 %(沖縄県)	70.9 %(東京都)
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	55.5 %	64.1 %(沖縄県)	51.5 %(東京都)

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 令和2年2月現在の電算処理割合は、処方箋枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。